

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 世田谷区立喜多見中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒157 - 0067

東京都世田谷区喜多見4-20-1

E-mail fuk131@setagaya.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 158 名 女子 134 名 合計 292 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「向上の喜び」を学校理念として、ESD を「つながる力」と捉え、ESD の実践を通して「将来を生き抜く」力の育成を目標とした。

具体的には、「人とのつながり」を柱に、①「人と人とのつながり」に係わる活動、②「人と環境とのつながり」に係わる活動、③「人と自然とのつながり」に係わる活動、④「人と社会とのつながり」に係わる活動を行った。

① 「人と人とのつながり」に係わる活動 (代表例)

生徒会では 2 学期に「落ち葉掃きボランティア」を行いました。生徒会が主導して発案し、団地内の公園 2 ヶ所を 4 日間にわたって清掃し、約 45 名が参加しました。寒い北風が時折吹き肌寒い時間帯でしたが、30 分程度の活動で、ゴミ袋 50 袋近くの落ち葉が集められました。地域の自治会長さんからもお礼の言葉をいただき、地域住民の方々とも交流でき、参加した生徒は改めて地域の一員であるとの自覚を深めることができました。

② 「人と環境とのつながり」に係わる活動（代表例）

3年生は「給食を通してエコを考える」をテーマに、給食の食器を作っている業者をお招きし、食器の一生を通して、どのくらい二酸化炭素「かばボン」が排出されるのかを教えてくださいました。食器を作るときに1番多くのCO²が排出されること、食器を洗うだけでもCO²は排出されるので、毎日繰り返されるとその量が増えることなどを、すごろくを通して学びました。物を大切にすることを忘れずに行動することが、環境を守る生活につながることを学びました。今後の生活に役立てていけるといいですね。

③ 「人と自然とのつながり」に係わる活動（代表例）

1年生では、「大蔵大根栽培」を行い、2学期をかけて活動しました。雑草取り、畝づくりから始まり、全員で種まきを行いました。学校全体での作業と放課後の班ごとの作業がありました。生徒は積極的に作業に取り組み、生長や収穫を楽しみにする様子が見られました。10月は雨が降り続いたため生育が心配されましたが、12月には例年になく立派な大蔵大根が収穫できました。その大根は自宅に持ち帰り、各家庭でおいしい料理にして食べました。食をつくる大変さを学んだ取組でした。

④ 「人と社会とのつながり」に係わる活動（代表例）

2年生では2学期に「職場体験」を行いました。1学期末から自己の将来に関する学習を行い、その学習を基にして、自ら職場先に電話でお願いしました。電話のかけ方やお願いの仕方などを考えながら、体験先を確保しました。3日間、充実した体験ができましたが、思っているよりも仕事内容が大変で、お客さんの見えないところで働いている姿を見て、働くことの大変さなどを体験でき、社会の中で気づきがたくさんあったようです。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

○教科「日本語」教科書 日本文化領域「食」 ○業者からいただいたパンフレット等 ・三信加工 (和食器)、無茶々園 (柑橘系)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- 本校では、食育を中心に力を入れている。教育課程には、総合的な学習の時間（世田谷区では1時間、教科「日本語」として活用）で様々な取組を推進し、指導計画の中に食育を位置付けている。
- カリキュラム・マネジメントとして、各教科で横断的に指導内容を精査し、食育・ボランティア・環境・持続可能な視点に基づいた内容を取り扱っている。
- 指導方法の工夫として、栄養教諭が教科授業と一緒に参加し、食育についての指導を行っている。また業者の力を借りて、様々な視点で生徒の関心を高める取組を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 本校では、ESD推進委員会を作り、そこが中心になってESDの取組を推進している。また、その成果を各学期に「ESD新聞」としてまとめ、保護者や地域に広報している。
- 地域が主催するボランティア活動に生徒を参加させている。地域との様々な協働作業を行うことで、地域との信頼関係を築いている。特に1年生で実施している「大蔵大根栽培」は、喜多見地域の協力があった成果である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 学校関係者評価アンケートにおいて、食育やボランティアの項目を評価した。肯定的評価は食育が69%、ボランティアは34%である。これは関わった生徒が少ないことを示している。ただし生徒の評価はここ数年、徐々にではあるが肯定的評価が増えている。今後、活動の質をどう上げていくかについては、ESD推進委員会の中で検討していく必要がある。
- 成果については、各学期に発行する「ESD新聞」、学校だよりなどに掲載して広報した。地域の理解・協力も得られている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

○食育やボランティア活動については、地域や保護者に案内を出し、教育活動を参観していただく機会を設けた。またその内容を「学校だより」や「ホームページ」に掲載し発信した。

○「ESD新聞」を各学期に発行した。社会とのつながりや人とのつながりなどのテーマを設け、各学年が特色ある行事に取り組み、地域・保護者に広く配布した。それにより本校の教育活動に理解を得られた(学校関係者評価アンケートの項目で肯定的評価増)。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

○まちづくりセンターとの地域協働活動を進めている。特にボランティア活動では、古着古布回収や避難所運営訓練、ボウリング大会など、地域とのふれあいを大事にする生徒の育成をめざした取組を行っている。

○児童館の行事へも積極的に参加し、地域の方々とも協力して、行事の分担をしている。

○駒澤大学とオリンピック・パラリンピック教育を企画し、学生との交流を今年度より始めた。今後、継続して企画していく。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

○教育ネットに配信される「ユネスコスクール みんなの掲示板」を見て、各校での実践の共有や研修会での情報を、学校全体で共有している。

○世田谷区内のユネスコスクールの小学校・中学校(中里小学校・駒沢中学校)と活動実践についての新聞や情報の交換をしていて、互いの実践内容を共有している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- 生徒が「つながり」を求めて、様々な活動を推進している姿が多くなったことが挙げられる。それにともない、カリキュラムも横断的な計画になり、各教科や特別活動、総合的な学習の時間などの関連や系統性を明確にすることができた。
- 地域や保護者、外部団体との交流活動などにより、学校関係者評価アンケートの肯定的数値が、毎年上がっている。本校の教育活動が理解され、学校への期待感へと高まっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

○平成30年度も「人と人、人と社会、人と環境、人と自然とのつながり」や「地域との協働作業」などを柱にして、以下の活動に取り組んでいく。

- ・ 5月 古着古布ボランティア、宇奈根の渡し
- ・ 6月 緑のカーテン（環境教育）
- ・ 7月 食育授業、ESD新聞の発行
- ・ 9月～ 大蔵大根栽培
- ・ 9月～ 駒沢大学との連携授業、職場体験
- ・ 11月 古着古布ボランティア、避難所運営訓練、区民まつり
- ・ 12月 大蔵大根収穫、小学校野菜交換、地域清掃
ESD新聞の発行
- ・ 3月 ボウリング大会、ESD新聞の発行
- ・ 年間 食育の取組